目黒稲門会 EXPRESS

★★★★★★2004年12月発行／第17号★★★★★★

発行人：加藤栄護　編集長：藤岡長世　事務局：〒152-0002目黒区目黒本町6-21-14　TEL:03-5723-8156

1月10日（祝）新年会にご参集を

2005年新年会を1月10日（祝）に行います。今回の講師は、創立時から当会トップとしてご活躍いただいた真仁田前会長（現相談役）。「東京の歩み―明治初期を中心に」をテーマに、東京都副知事時代のご経験もふまえ、日頃お聞きできない取っておきのお話を伺います。多数の皆様のご参集をお願いいたします。

日時：2005年1月10日 午後6時から
会場：ウエスティンホテル東京
会費：1万円（家族同伴5000円）

＊お申込み：同封はがきにて。締切り：12月25日（土）
＊ お支払いは当日です。（お申し込みの方でキャンセルの方は1月5日までに事務局にご連絡ください。ご連絡のない方は、会費をいただきますので、ご注意ください。）

稲門祭2004、盛大に開催される

去る10月24日（日）、OB/OGのお祭り「稲門祭」が開催されました。今年は「早稲田力」をテーマに、各分野で最先端の研究をされている学部・大学院教授のお話を聞いたり、大隈講堂・キャンパス・庭園での行事など、にぎやかに開催されました。とくに東京都23区支部などが主催の大隈庭園では、各区稲門会から焼き鳥・おでん・全国銘酒試飲会などさまざまなテント出店があり、ジャズ演奏などを交え、例年以上の盛り上がりを見せました。

注目の福引では、残念ながら今年は上位賞はありませんでした。来年こそ、目黒稲門会会員が大きな賞を勝ち取るよう、願っています。

訃　報

前副会長・中沢信平さんが11月11日、すい臓がんのためご逝去されました。（享年81才）　謹んでお悔やみ申し上げます。

2月16日（水）東京都23区支部大会へ

昨年に続き、東京都23区支部大会を2月16日(水)に開催いたします。他区稲門会・大学校友会の皆様との親交を深めるよい機会です。多数のご参加をお願い申し上げます。お申込み・お問合せは事務局まで。

日時：2005年2月16日(水)　午後6時から
会場：リーガロイヤルホテル東京
会費：1万円

＊ 講師に中曽根康弘氏（元総理大臣）を予定しています。

新　入　会

小　野　　満　昭和41年・商　趣味：ゴルフ、絵画
紀　本　直　幸　昭和36年・法　趣味：読書、ゴルフ、園芸

会費納入のお願い

2005年度（平成16年度）会費未納の方は後日お送りする郵便振替用紙にてお振込みください。よろしくお願い申し上げます。（事務局）

目黒稲門会ホームページ便り（その1）

公式ＨＰが開設して５ヶ月。先月から掲示板も作りました。皆さん、お気軽に書き込みをお願いいたします。簡単ですし、特別な話でなくとも結構です。

さて、ＨＰの楽しみ方を説明して欲しいとの要望がありましたので、第一回目です。まず、すべてのプログラムの中からInternet Explorerを開いて、そのＵＲＬアドレスにhttp://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/を正確に入力してください。そして、右端の【移動】をクリックすればＨＰのトップが出てまいります。ここは、本で言えば目次のようなものです。一度、出ましたら『お気に入り』に登録しましょう。いつでも呼び出せます。　（つづく）

広報ＨＰ担当 中西千可子　meguro-tomonkai@nifty.com

「一隅を照らす」政治家中沢先生を悼む

眞仁田　勉

中沢信平先生は、正に卒然と逝ってしまわれた。無常を思わざるを得ない。

私は、かなり前から先生と面識はあったが、格別昵懇ではなかった。もちろん先生が目黒政界の重鎮であること、日中友好の熱心な推進者であることは承知していたが、深くはなかった。親しくその馨咳に接することができたのは、目黒稲門会発足後である。

戦後、東京都の職員から労働運動に身を投じ、その後、政治の道を歩まれた。先生が望めば、都政、国政とより広い道も拓けたものを、それをしなかった。先輩を立て後進を育て、自分は目黒に徹した。それは、政界への道を歩むに当たり樹てた志であった。初志を貫く信念の人であり、正に「一隅を照らす」政治家であった。

早稲田を愛し、早稲田を誇りとしておられた。スポーツ好きの先生は、早稲田の活躍に無邪気に驚喜していた。目黒稲門会の生みの親の一人である先生は、この七月の総会で議長役を努めた後、私共の前から姿を消してしまわれた。残念でならない。

中沢先生、安らかにお眠り下さい。合掌

〔空　往　満　帰〕

―外岡茂十郎の軌跡④―

外　岡　　明（26年理工・電）

⑫　戦後 早稲田野球の黄金時代（敬称略）

昭和22年

春2位：順調に勝ち進んだ早稲田は、東大戦で大黒柱の岡本が肘を痛めるというアクシデントに見舞われ1勝1敗、明大戦も1勝1分、そし早慶戦は2連敗で、2位に甘んじた。

秋6位：9月、最後の繰上げ卒業のため、監督の相田、岡本、南里、鶴田、山村、中村、頴川、岡崎ら8名が卒業してしまった。そこで、監督として昭和6年卒の森　茂雄（松山商・昭和5年主将）を迎えることとなった。しかし役者不足は如何ともし難く、東大には連勝したものの、早慶戦では5対17、0対4と大敗を喫し、2勝8敗で前年秋の優勝から、一転して屈辱の最下位に転落した。

昭和23年　このドン底の中に、現れたのが、シベリヤ抑留から復員して来た石井藤吉郎であった。

春 優勝：石井（水戸商）は、前年暮の合宿からチームに参加し、春に備えていた。　早稲田は、投手は石井、末吉（俊信：小倉中）、荒川（宗一：掛川中）の継投。　打は4番の石井を始め、磯野（良太：甲陽中）、荒川、蔭山（和夫：市岡中）、野見山（博：嘉穂中）の面々。対する他校投手は、慶応・平古場昭二、明治・杉下茂、法政・関根潤三、など。　結果は、早慶戦に連勝した早稲田が、明治との優勝決定戦を末吉の好投で制して、春の最下位から奇跡的な逆転優勝を遂げた。

石井は、打数64、安打21、打率.328、本塁打1本、三塁打5本、二塁打4本、打点12、

盗塁3を記録し、最高殊勲選手に選ばれた。

秋3 位：他校のマーク厳しく、苦戦であった。早慶戦に連敗し、3位に終わった。

昭和24年

春 優勝：開幕戦、立教に14対1と大敗を喫したが、その後立直り、末吉の13試合で9勝4敗の好投と、石井の25安打、打率.397をはじめ、蔭山、宮原（実：岡山二中）、荒川等の強打線で優勝した

秋3位：春秋連覇を目指して、投打の要　末吉、石井が両輪になり順調に滑り出し、東・立・明から勝ち点を奪い、優勝争いの早慶戦に臨んだ。　1勝1敗での第三戦、5対2でリードしていた5回、怪しかった空模様が、堰を切って豪雨となって降り出した。試合続行不可能となって、ノーゲームとなってしまった。優勝を目前にしての無常の雨であった。

翌日は、好天気となったが、球運は味方せず、二本の太陽安打などで9点を奪われて、無念の涙を呑んだ。

昭和25年

野球部創部50年の年。主将蔭山が卒業し石井が主将となる。そして広岡（達郎：呉三津田高）、小森（光生：松本市立高）、福島（一雄：小倉高）などの新鋭が加わる

春 優勝：10勝2敗で優勝。早稲田のチーム打率.311、石井は打率.440で首位打者となり、末吉.395、荒川.352、岩本（尭：田辺高）.333、宮原.318、島田（雄三：難波商）.315、山田（俊雄：成田中）.302、と三割打者7人を数えた。

秋 優勝：早慶二回戦は、天皇、皇后両陛下、皇太子殿下がご観戦になった。（これは、昭和4年以来21年ぶりの天覧試合である。）試合は、末吉の投・打（3打数3安打）の活躍で1対0で快勝。リーグ戦は、荒川、石井、宮原、岩本ら中堅打者が猛打を振るい10勝1敗で、春秋2連覇を遂げた。

大學野球王座決定戦も、日大、同大を撃破、覇権を握った

昭和26年　石井、荒川らが卒業し、石井連蔵（水戸一高）が入学。

春 優勝：このリーグ戦も末吉、宮原、広岡、小森らの活躍で8勝2敗1分で優勝。

優勝決定戦となった早慶戦を、占領軍最高司令官リッジウエイ大将夫妻が観戦。早稲田は、延長12回　広岡がサヨナラ中前打、3対2で三連覇を成し遂げた。

秋4 位：夏から秋にかけての試合旅行の過密スケジュールで精彩を欠き、出だしで明、法に食われ、さらに早慶戦にも敗れて4位に転落。　7勝6敗。

昭和27年：神宮球場米軍より返還さる。

春3位、秋 優勝。

昭和28年：春2位、秋3位。

昭和29年：広岡ら卒業。

春3位、秋 優勝「奇跡の優勝」と言われた。石井連蔵首位打者（.375）となる。

昭和30年：

春2位

秋 優勝：（ここで、この優勝に貢献した我が目黒稲門会幹事 松岡雅俊さんの勇姿を紹介しよう。）

9月25日、早明二回戦9回裏、0対2で負けている早稲田　最後の攻撃。この日 明治の秋山投手は絶好調、一度も早稲田にチャンスを与えず、二塁を踏ませなかった。ところが最終回、早稲田の猛攻で大波乱が起き、松岡の起死回生の本塁打で劇的な幕切れとなったのだ。

この回 早稲田は、代打藤井 四球、宮崎 三遊間安打、打者北崎の時、明治バッテリーの意表をつく重盗、見事に成功し、無死二・三塁の好機にとなり 北崎の犠飛で1点差に迫った。森三振のあと、四番 松岡は、すかさず初球を叩いたが、右翼ファール・フライ。万事休すと思われたその時、明治右翼手が陽光に阻まれて、ポロリ落球。

命拾いした松岡は、1―1後の直球を見事 捉えて左翼芝生席ポール際に本塁打を放ち、勝敗は一瞬にして所を変え、早稲田の勝利となったのである。

昭和31年：春 優勝 秋3位 。

昭和32年：春4位 秋4位。

昭和33年：石井連蔵監督となり春3位秋 5位

昭和34年：春優勝 全日本大學選手権で関学を破り優勝。

秋2位

昭和30年秋季　六大学野球リーグ戦　優勝

外岡部長　松岡副主将　飛田顧問　遠藤主将　森監督

昭和35年
春2位
秋 優勝:球史に残る早慶六連戦が行われたシーズンである。

早稲田は、7勝3敗2分で勝点3。慶応は、8勝2敗で勝点4。リーグ優勝するには、慶応をストレートで破るか、2勝1敗で勝って同率とし、決定戦に持込んで勝つより他はなかった。

その一回戦は早稲田 安藤(元博:坂出商校)、慶応 清沢の対決で2対1、二回戦は早稲田金沢(宏:岩国高)、慶応角谷が登板1対4、三回戦は再び安藤、清沢対決で3対0と2勝1敗で勝点4をあげ、同率首位となり、優勝決定戦へともつれ込んだ。これは昭和14年以来21年ぶり、東京六大学史上3度目のことである。

決定戦第一戦目、安藤、角谷の投げ合いで、早稲田1点リードされた土壇場の9回表　一死となり、慶応応援席は紙テープの用意を始めたその時、早稲田は代打鈴木が右中間三塁打を放ち、次打者のタイムリーで追いつき延長11回、1対1で日没引き分けとなった。二戦目も安藤の連投と、角谷・清沢継投の対決で、0対0のまま延長11回で慶応無死満塁のチャンス、四番　渡海の右飛を右翼手伊田(保生:明星高)は捕球するや否や一世一代の好返球で、走者を本塁寸前で刺し、ピンチを脱して再び日没引き分けとなった。そして第三戦目は、またも安藤が登板して、3対1で勝って、実に、六戦目で優勝をものにしたのである。

これを好リードした捕手こそ、現監督 野村徹(北野高)である。

この六試合の観客総数は38万人、得点合計は僅か早稲田が10点慶応7点であった。

両軍投手陣の死闘が窺がわれる。

安藤は7日間で5試合に完投して、49イニングス、打者延べ163名、564球の力投をし、被安打27、三振18、四球5、自責点3という成績で、その精神力は球史に残る輝かしいものである。(安藤は、卒業後 プロ野球で活躍したが、平成8年この世を去った。)

会報第8号「ゴルフ用語の話」正誤表　(島田　久家)

	誤	正
(6頁左列)		
12行目	1番ホールアウトまで	1番ホールのホール・アウトまで
22〃	アント後パートナー(5)の	ホール・アウト後パートナー(5)の
23〃	スコアカードの幹事まで	スコア・カードを幹事まで
38〃	何回かフォアー(11)と	何回かホアー(11)と
(下から)		
4行目	しない由、正しくは	しない由である。正しくは
(右列)		
(下から)		
25行目	単にビューティフルファイン	単にビューティフル、ファイン
14　〃	出来る限り下の発音を	出来る限りFの発音を
12〃	日本人にだけ残った	日本にだけ残った
5行目	オンザグリーン・レギュレーション	オン・ザ・グリーン・イン・レギュレーション
7頁下段		
(6頁より続く)		
9行目	流体の学的現象	流体力学的現象
13〃	これまで簡明で	これまた簡明で

リレー随想

震度7の体験

鈴木　正　明(35年政経)

あの時から丸10年が経過しようとしてます。今でもゴルフで朝早く起き、テレビ画面の5時46分の時刻を見るとあの時の状況が昨日の事のように思い出されます。

私は平成6年4月大阪支社へ転勤となり、宝塚駅前の12階建マンションの3階に入居しました。初めての転勤で新しい地、関西での生活に期待をもって着任しました。この年の夏は今年に匹敵する記録的な猛暑でしたが、週末はゴルフと京都奈良巡り等で単身生活を楽しんでました。10ヶ月目の平成7年1月17日5時46分M7.3,震度7(注)の阪神淡路大震災に遭遇したのです。その時、街も人も殆ど眠りの中でした。私は当日四国方面への出張を予定しており、5時に目が覚めた為テレビを見ながら早い朝食をとってました。その時、大きな揺れと轟音と共に目の前の食器棚が飛んできました。間一髪、隣のソファへ体を交わし難を逃れました。私はその瞬間マンションの地下で大爆発が起きたと思いました。揺れは3～4秒と感じましたが、後日気象庁の発表では揺れは約20秒続き大きな揺れは最初の5秒間とあり私の感覚と大体合致しました。私の知人はこの日5時に目が覚めご夫婦で寝床でラジオを聴いている時、家屋が倒壊し隣の奥様が梁に挟まれ亡くなりました。逃げる事も助ける事も出来ない一瞬だったのです。朝が明け室内を見渡すと床はガラスの破片が一杯で歩けない状態です。隣の寝室はガラスケースが向かい側の壁に叩きつけられ、ガラスが鋭利な三角形状となり布団と枕に無数に突き刺さっており、もしあの時寝ていたらとゾッとしました。マンションは衝撃で歪みドアの開閉は出来ず、隣家の協力で外へ出ると入口は大きなコンクリートブロックが落下し鉄筋がはみ出てました。駅前の木造家屋は殆ど上から押し潰したように倒壊しており、阪神電車は脱線し傾いてました。この廃墟から抜け出すのは困難と考え、まず食料を調達すべく近くのコンビニで目の前のスナック類を袋一杯買い求めました。一夜明けて翌朝一台のバスが大阪方面に運行すると聞き、飛び乗りました。わずか25Kmしか離れてない梅田へ着くとデパートもパチンコ店も平常どうり営業しているのには驚くと同時にホットしました。出社後、私自身その日からの宿を確保のためホテルを予約し、2月末迄ホテル生活を続けました。同時に芦屋の社宅の社員と家族救済の為、食料、水、簡易コンロを調達し若い社員が自転車で届ける日が続きました。これも大阪が無事であったからこそ可能であったと思います。一方首都圏ではこの震災の2ヶ月後の3月20日サリン事件が発生し、関心はそちらに奪われ地震に対する警戒心は希薄になってしまいました。首都圏がもしプレート型地震に襲われた時、被害は広範囲に及び大阪／神戸のような連繋は出来ないと思います。私たちは日頃地震の事は忘れてますが、阪神淡路大震災も新潟県中越地震も明日は我が身ととらえ、ひとりひとりが救援が来るまでわが身を保つだけの備えがなければサバイバル出来ないのではないかと思います。

注、M 1は30倍を表し、M 6はM 5の30倍,M 7はM5の900倍の規模震度は0から7迄8階級に分かれており震源の深さや距離で異なる

次回は横山 大副会長にお願いします。

会　則・正誤表

前回会報・会則記載で誤りがありました。
(誤)第7条　2.……監事の互選による
(正)　　……幹事の互選による
(誤)第10条　2.提示総会は……
(正)　　定時総会は……

各部会からの報告

第15回ゴルフ会

第15回ゴルフ会は10月13日千葉県鶴舞カントリー倶楽部で開催されました。

毎回快晴を誇ってきましたが当日は台風一過秋晴れの予報が外れ、あいにく雨の中のスタートとなりました。にもかかわらず今迄最多の女性5名を含む8組29名が参加しました。幸い午後は雨も止み無事ホールアウトできました。

競技成績は優勝三部由夏子さん、準優勝は安部幾雄さん、3位村上明子さんと女性が上位を占めました。特に三部さんは前々回1位、前回2位と安定した実力を見せ、村上夫人の華麗なスウィングと共に男性軍を圧倒しました。然しながら秋の長雨の悪条件にも拘わらず自己ベストを改善した伊藤悠さん、12ストローク改善で大波賞を獲得した小池早苗さんも見事でした。又五味正範先輩は10位賞、水平賞、NP賞の他馬券まで当てる大健闘でした。帰路車中で初参加者4名の自己紹介と全員のスピーチが終わる頃目黒に到着しました。

ゴルフ部会長　鈴　木　正　明

第15回目黒稲門会ゴルフ会（鶴舞CC）2004年10月13日

総長杯ゴルフコンペ

第5回早稲田大学総長杯ゴルフコンペは　11月5日快晴に恵まれ埼玉県おおむらさきゴルフコースで総勢246名が参加し開催されました。今回より他稲門会との交流を深める為目黒稲門会は草加稲門会、荒川稲門会、足立稲門会との混合組み合わせで行われました。参加者は地域稲門会の他ナレオ稲門会、応援部稲門会、硬式野球部、谷沢健一氏、瀬古利彦氏も顔を揃え、特に瀬古氏からはアテネオリンピックの興味あるスピーチがありました。目黒稲門会より下記6名が参加しました。浅海敏之（38位　グロス81）、加藤栄護（42位　98）、外岡明（123位　102）、鈴木正明（127位　102）、保井正（149位　97）、島田久家（180位　103）。尚優勝は港稲門会の康本章守氏（グロス82）でした。

ゴルフ部会長　鈴　木　正　明

総長杯参加の精鋭たち

囲碁部会

平成16年12月24日（金）下目黒住区センター　午後1時～5時
　囲碁大会　クラス別総当たり　ハンデ戦
　忘年会　　創作料理　KaTsu
平成17年1月7日（金）
　定例囲碁部会　下目黒住区センター　午後1時～5時
平成17年2月11日（金・祝）
　対目黒三田戦　下目黒住区センター　午後1時～5時

囲碁部会長　保　井　　正
TEL&FAX　03-3792-9138

ダンス部会

いまダンス部は暑いです。一曲踊ると汗です。
こんな楽しい趣味を皆さんぜひ知ってほしいです。
「リズムに乗って、歩いて、歩いて、ほーら、身体が浮いてきた、リズムに乗ってきた」
何となく感じがわかってきましたか、もう少しです。
あとはダンス部に参加するだけです、待ってます。

- ●日時：毎週木曜日　pm6:30～9:00
- ●会費：男性　2,000円
  　女性　1,500円
  軽くビールなども用意してあります。
- ●会場：東急学芸大学駅2分「サンステップ」
  TEL&FAX03-5722-4484

部会長　小　川　裕　正
TEL&FAX 03-3793-5555

カラオケ部会

開催日時：12月10日（金）午後5時～8時
　　2005年1月14日（金）時間未定
　　会場：学芸大学コートダジュール

カラオケ部会長　海　口　昭　治
TEL　03-3710-5761
FAX　03-3710-5762

美術・歴史鑑賞部会

第5回美術・歴史鑑賞部会は、10月8日（金）に国立西洋美術館で開催中の「マティス展」を鑑賞しました。この日の参加者は20名。各々のペースで色彩の画家マティスの作品150点を鑑賞した後、レストラン「ぎんれい」に席を移しフランス料理を味わいながら、恒例の美術談義に花を咲かせました。

今回は入館前に幹事から、各々が一枚の絵を選んでコメントをして頂くことをお願いしてありましたので、従来に増して内容の充実した話題が出て、楽しい話し合いになりました。
なかでも傑作は浅海敏之さん（元ラグビー部選手）の話で、マティスの色彩を学生時代の試合の応援に来ていたお嬢さんの身に着けていた帽子や洋服の色でコメントしたものです。ラグビーの試合中に、スタンドの女性のカラーコンビネーションまで見ていた浅海さんの余裕に、流石に名選手は違うものだと感心した次第です。

今回の展覧会には、世界中の美術館からマティスの傑作が集まりましたが、わたくしが特に感心したのは、数多く展示されていたデッサンです。女性の表情の変化を精密に描写した連作を見れば、彼が単に色彩とフォービズムの画法に頼る画家ではないことが分かります。マティスは友人のヘンリ・クリフォードへ送った手紙に、「‥‥私はデッサンによる勉強が最も肝要だと思います。デッサンが『精神』、色彩が『感覚』からくるものならば、まずデッサンすること、精神を耕すことによって、色彩を精神の小径にまで導きいれることが必要でしょう。私は声を大きくしてこのことを叫びたいのです‥‥」と書いていますが、まことに納得させられました。（引用は集英社　現代世界美術全集より）
次回は旅行部会と共催で、12月5日（日）に熱海のMOA美術館へ参ります。みなさまふるってご参加ください。

美術・歴史鑑賞部会　幹事　八　幡　和三郎
yahata@mte.biglobe.ne.jp

麻雀部会

麻雀大会
　12月19日(日)　西小山にて開催
　新年会　2005年2月 第1日曜予定

部会長：土　方　正　巳